

# 十 勝 岳

札幌管区气象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

- ・ 噴煙活動（図 2）  
62-2 火口の噴煙の高さは火口縁上概ね 200m 以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。
- ・ 地震活動（図 2、図 3、表 1）  
火山性地震は一日あたり 0～2 回で、地震活動は低調に経過しました。震源は概ねグラウンド火口周辺の浅い所に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。  
火山性微動は観測されませんでした。
- ・ 地殻変動（図 4、図 5）  
GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

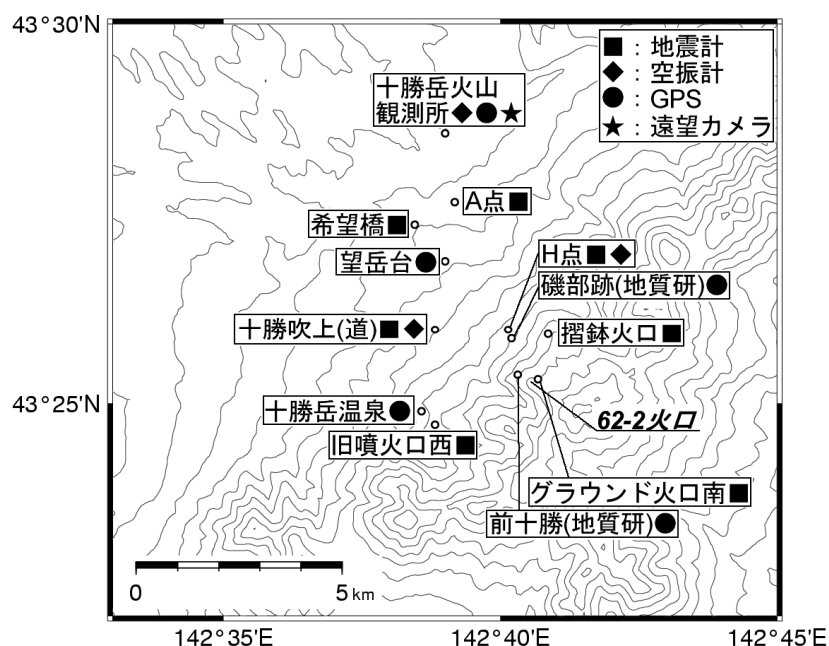


図 1 十勝岳 火山観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 1 月分）は平成 20 年 2 月 7 日に公表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

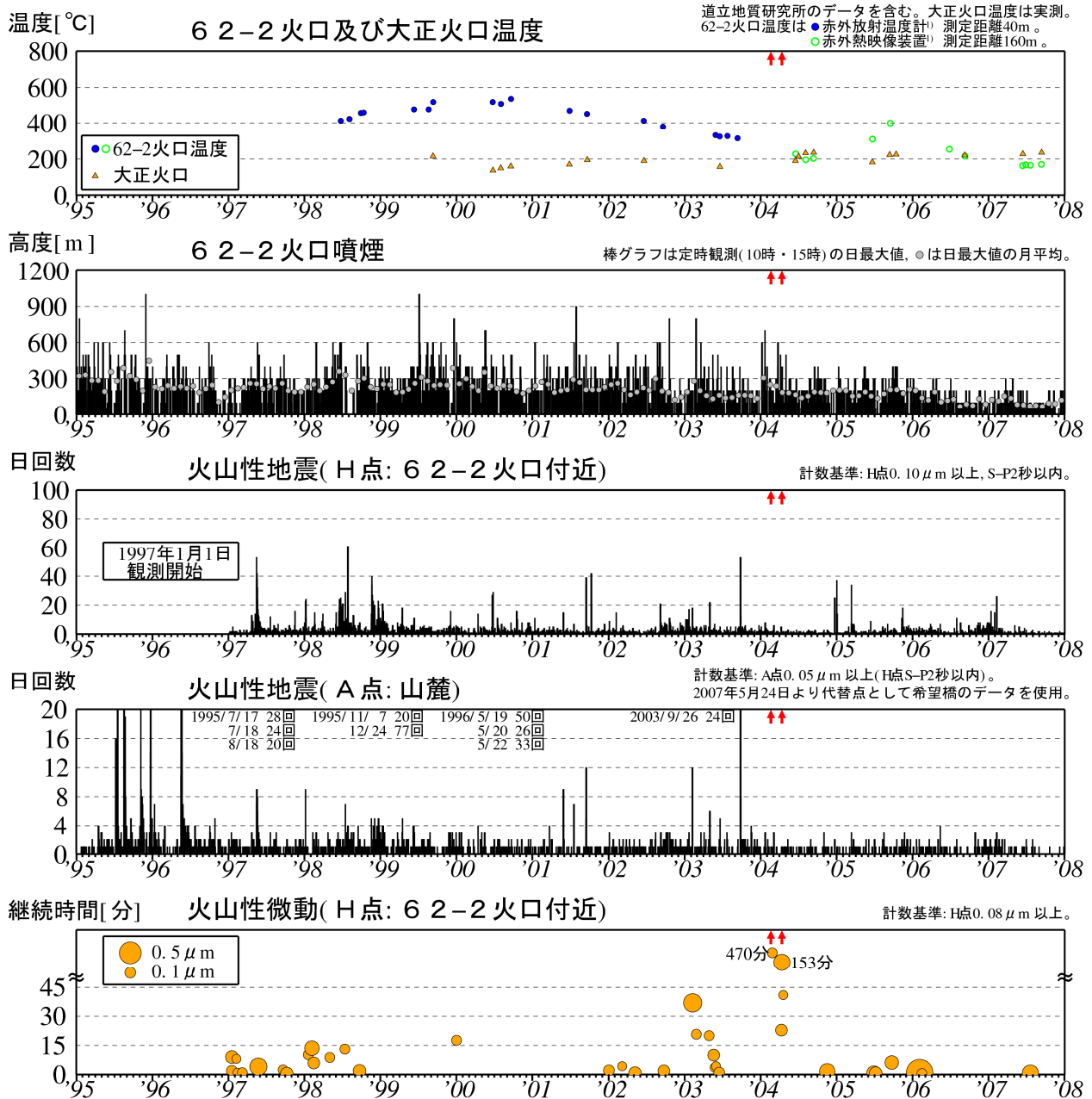


図 2※ 十勝岳 最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月～2007 年 12 月) ↑印はごく小規模な噴火

- ・62-2 火口の噴煙活動はやや活発な状況が続いていましたが、2006 年 1 月以降低下傾向が見られます。
- ・地震活動は 1999 年後半から比較的静穏に経過しています。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表 1 十勝岳 地震・微動の月回数 (H点: 山頂付近 [図3の TOKH]、A点: 山麓点 [図3の TOKA])

2007年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H点地震回数	90	54	23	15	23	19	10	7	8	10	6	5
A点地震回数*	9	12	5	4	5	6	4	2	0	0	0	2
H点微動回数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

\*地震観測点 A 点は近傍での工事のため 2007 年 5 月 24 日から 2007 年 11 月 9 日まで代替点として希望橋 [図3の KBBS] のデータを使用しています。

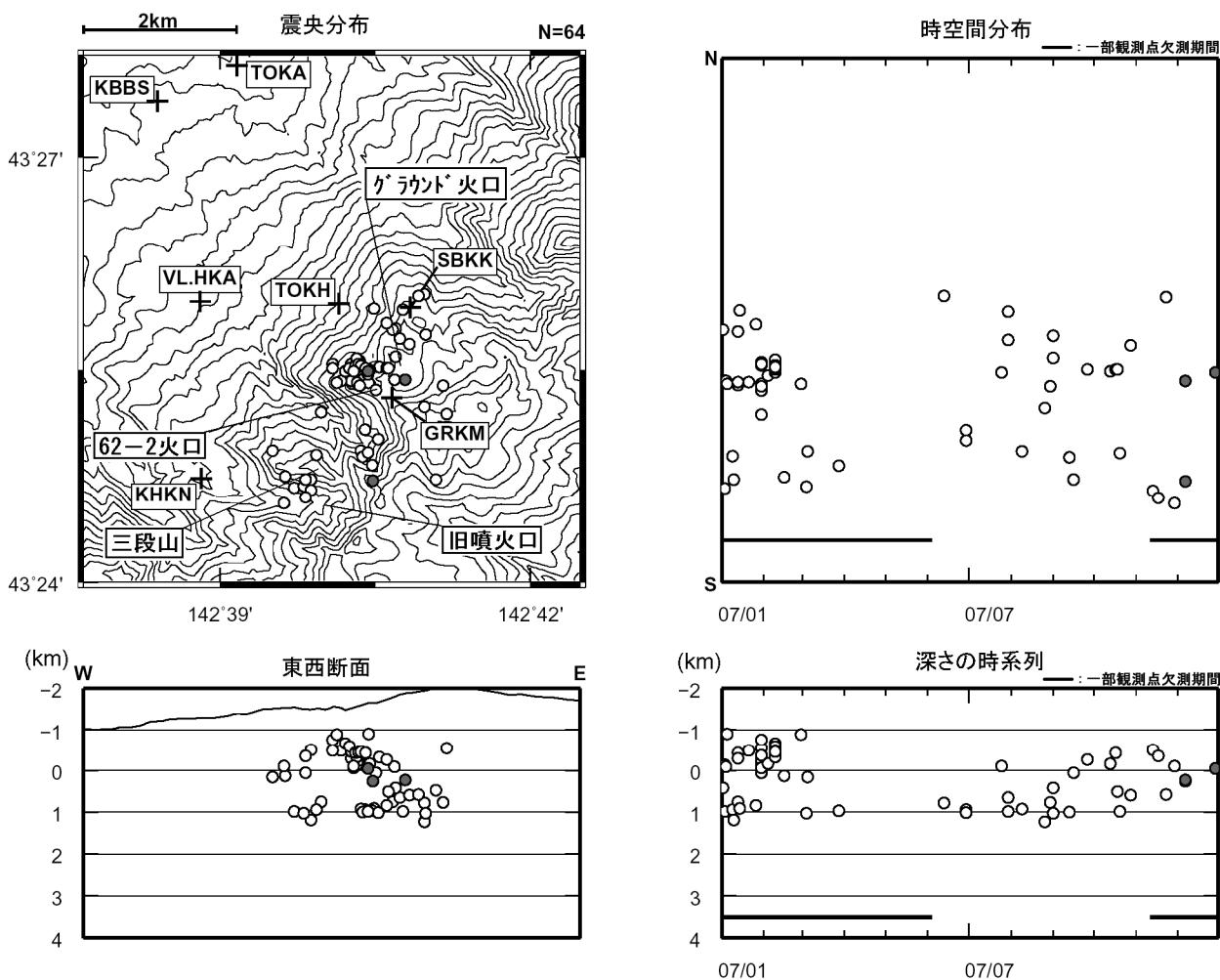


図3※ 十勝岳 震源分布図 (2007年1月~2007年12月、+は地震観測点)

表示期間中、2006年11月22日~2007年6月4日及び2007年11月11日~2007年12月31日の期間は、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

●印は今期間 (2007年12月) の震源

○印は前期間までの11ヶ月間 (2007年1月~2007年11月) の震源

・前期間までの震源はグラウンド火口周辺の浅い所 (山頂から深さ1~3km付近) に集中しているほか、三段山~旧噴火口周辺の浅い所にも分布しています。今期間の震源も、概ねこの領域内に分布しています。

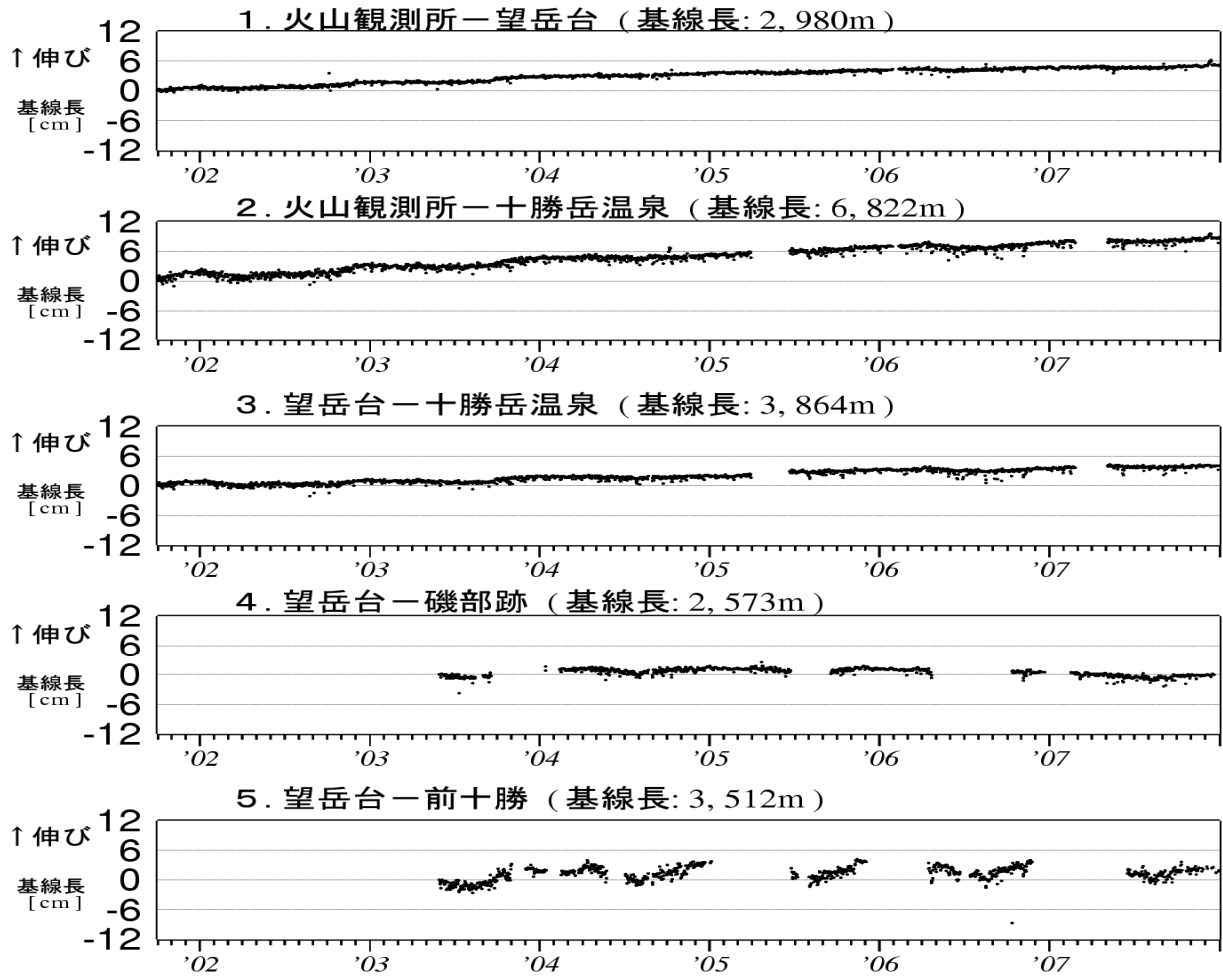


図4※ 十勝岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月～2007 年 12 月)  
 グラフの空白部分は欠測  
 図4の1～5は、図5のGPS基線①～⑤に対応しています。

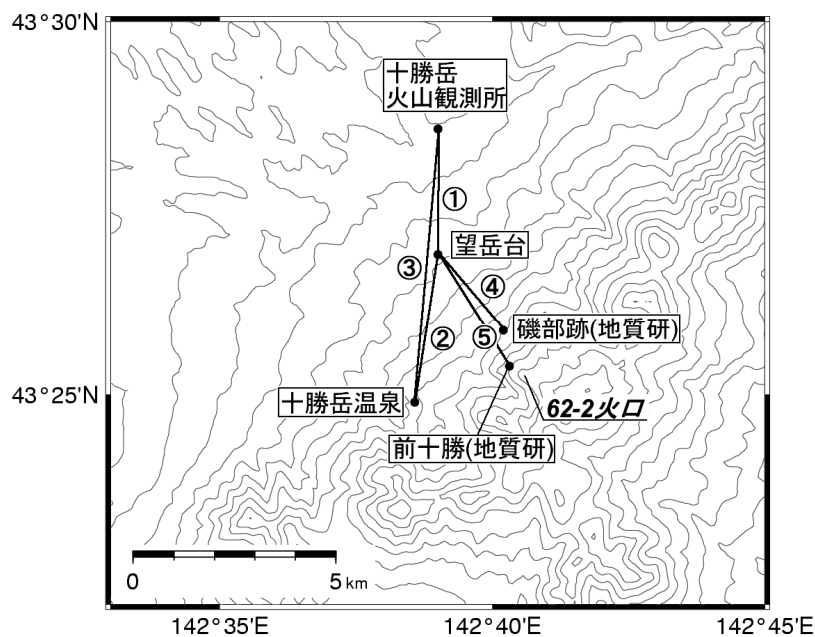


図5 十勝岳 GPS 観測点配置図